

# 中部ブロック会報 第32号

平成29年度中部ブロック研究会【1日目】2018年1月6日(土)【2日目】2018年1月7日(日)

開催地:岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 〒444-0015 愛知県岡崎市巾町1-8-4

## 【平成29年度・中部ブロック研究会を終えて】

ブロックリーダー 手嶋 慎介



2018年1月6日・7日の2日間、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学様において、今年度のブロック研究会が開催されました。今回は約20名の会員等、プレゼンテーションコンテスト出場学生8名のご参加をいただき、大変賑わいのある研究会となりました。会場を快くご提供いただき、かつ、物心両面にわたりご支援を賜りました関係者の皆様、特に学生プレゼンテーションコンテストの審査委員長までお引き受けいただいた林陽子学長には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今期の本ブロックの活動としては、引き続き、共同研究の推進に重点を置きたいと思っております。最終頁、共同研究助成公募のお知らせをご確認ください。ブロック会員の皆様には、より一層の研究会活動へのご参加・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 1/7 公開講演 講師 北九州市立大学教授 見館 好隆 氏

### 【地域・産学連携事業の実践とその成功要因】

ブロックサブリーダー 河合 晋



実務に繋がる高等教育の重要性が高まっている現況下で、地域・産学連携事業で学びを実践する必要性と同時に、学生が自分の学びの履歴をデータベース化するポートフォリオの重要性も示されました。事業の成功要因としては、必ずPBL(課題解決型学習)として依頼し、その際は、①連携企業にとってメリットがあることを示す(1. 普段忙しくて後回しにしていることを学生に任せ、納期までに仕上げる、2. 学生が来ることによる社内活性化、3. 採用プロセスの一環など)、②企業の役職者の前で、学生のプレゼン発表の機会を設けること、③企業には大学に3回来てもらい(課題提示・中間プレゼン・最終プレゼン)、課題提示は具体的に行い、中間ではかなりの改善要求をしてもらい、最終プレゼンで成績評価を行うこと等がポイントとされました。

また、市役所などはインターンシップ型PBLが実践しやすいことなど、北九州市立大学の実践事例と成功要因が多岐に渡って示されました。多くの企業の面接で「様々な世代の人と話してきましたか?」という質問がされることから、学生には①コミュニケーション能力の獲得、②将来視野の広がり、③社会で生き抜く力の育成を念頭に実践教育すべきだとの内容でした。フロア全出席者でのディスカッションも行われ、今後も地域・産学連携事業の実践モデル構築の手法を探索し、実践に繋げた事例報告を蓄積していくことが確認されたことは大きな成果の一つであったといえます。

## 1/6 中部ブロック研究会助成共同研究 【ビジネス実務におけるプレゼンテーション教育・学習法の再検討—他者評価を重視したプレゼンテーション取り組み事例—】

山本恭子(名古屋学芸大学)・上野真由美(名古屋女子大学短大部)・加納輝尚(富山短大)・手嶋慎介(愛知東邦大学)



山本 恭子先生

授業で行った学生のプレゼンテーションに対し、学生と授業担当者の他、社会人と他大学教員の視点を加え評価結果の差異を確認し、実社会で活用できるプレゼンテーション教育・学習法の再検討を行った。プレゼンテーション評価の選択肢設問の評価結果から、相関関係において学生相互評価は他大学教員、社会人の評価と類似性が高く、学生相互評価はプレゼンテーション指導に有効であるという示唆を得た。評価結果上位者の特徴から、社会人は非言語コミュニケーション要素を高評価することが把握できた。さらに自由記述の分析結果から、社会人は「伝えたいことが明確」、「聞き取りやすい話し方」というプレゼンテーションの基本的なところを重視しており、学生及び教員と着目点に差異があることが確認できた。今後の課題として、プレゼンテーションの本質である伝えたい内容を明確にする、非言語コミュニケーション能力を高める教育・学習法が必要と考える。



中部ブロック研究会助成共同研究発表に続き、同研究チームによりパネルディスカッションが企画・実施された。

愛知県立南陽高等学校の渡辺力樹先生からは、「企業不祥事」についての愛知東邦大学との「教え合い・学び合い」の発表交流、地域住民への「消費者トラブル対処法」の紹介の取組み、及び東海財務局等の専門家への「望ましい税金の使い方」の提案など、高校での商業教育を現場で生きたものに昇華させるプレゼンテーション教育について非常に示唆に富んだ事例報告をしていただいた。

また、株式会社ツシマリバイブの阿比留大吉氏からは、教育寮 TOHO Learning Houseの運営管理責任者のお立場から、当該教育寮における学生のプレゼンテーション機会と実践の勘所についてご報告いただいた。特に「利害モデル」を意識して、自分と直接関わるステークホルダーに「共感」を得た上で、全体最適の一部として自己の利を置くことができる俯瞰的視点を持つことが大切であるという言葉は、現場の実践から生み出されたプレゼンテーション教育の視点の重要性を強く印象付けるものであった。

渡辺 力樹 氏 (写真上) 阿比留 大吉 氏 (写真下)

## 研究発表① 【オランダに学ぶ働き方改革】

米本 倉基(藤田保健衛生大学)・坂田 裕介(藤田保健衛生大学)



米本 倉基先生

働き方改革が進む中都内の名門病院における未払残業代による経営危機問題や別の都立病院での夜間や休日の勤務の未払い残業事案は医療界に大きな衝撃を与えた。本発表は、働き方改革で先進国と言われるオランダで働く日本人女性医師にインターネットを通じてインタビューした。その結果、オランダでも、子育て中の女性や、多忙な臨床勤務に限界を感じた男性医師に、産業医や保健所医への転職を選ぶ人は多いこと、一般的に子育て期間中は、男性も女性もそれぞれ週3日のパートタイム勤務にすることが多いのだが、仕事に責任が生じる病院勤務の医師の場合、やはり男性は子供が生まれてもフルタイムで働き続け、女性は仕事をやめるか、パートタイム勤務が可能な産業医や保健所医などに職種を変更することが結構あることなどが分かった。特に、医師の働き方改革では、医療サービスの質、特に医療安全の低下を伴う可能性があることが本調査によって示唆された。

## 研究発表② 【書画カメラを活用したアクティブラーニングの試み－資格試験における

河合 晋(岡崎女子短期大学)・黒野 伸子(岡崎女子短期大学)

問題演習を中心に－】



河合 晋先生

授業でスライドを多用すると、やる気を失う学生が少なからずいる。薄暗い教室で見たくもない映画を見させられているのだと言う。一方、板書は「順序立った板書の過程が思考を深める重要な手掛かりとなる」等の機能を持っている。指導者の誤字・脱字さえも学習者にとっては間違いの「追体験」となる。しかし、代表者が担当する簿記の授業で試算表・精算表作成の問題演習では、毎時限2回以上は黒板に表を書いては消していかなければならず、時間的ロスが大きい。その点、アニメーション機能も多用したスライドと穴埋め欄を設けた授業レジュメの配布は合理的であったが、それでは学生が「追体験」できず能動的取組みを阻む要因になっていると感じた。

本発表は、授業レジュメや会計帳簿がそのまま投影できる書画カメラに注目し、問題演習に取り入れた実践報告である。指導者の説明と同時に書き込む姿がそのまま写し出されるため、教員自らがアクティブラーナーとなり、学生との一体感が生まれる授業が展開できると考えられる。

## 研究発表③【医療事務職に必要な社会人基礎力ー先行研究レビューからー】

黒野 伸子(岡崎女子短期大学)・河合 晋(岡崎女子短期大学)



黒野 伸子先生

近年、社会状況の変化や人間関係の希薄化によって、「社会で生き抜いていくために必要な力」が薄れてきたといわれている。しかし、医療現場の環境は厳しさを増している。多様な患者ニーズに適切に応えるためには、社会人基礎力は不可欠である。本稿では、社会人基礎力養成についての先行研究分類整理し、実践に耐えうる教育プログラム構築に資することを主な目的とした。対象とした59編について詳細な検討を加えた結果、社会人基礎力育成のための教育プログラムは「正課内授業型」「正課内体験型」「正課外体験型」に分類できた。医療系事務職員における社会人基礎力の育成は、「正課内授業型」が適していることが明らかになった。授業目標を12要素に置き換え、指標として使用すれば、社会人基礎力の伸長が測定できることも示唆され、社会人基礎力の12要素を軸とした実習プログラム開発の可能性をみることができた。

## 研究発表④【サービスデザイン手法による地域ポータルサイトの再構築】

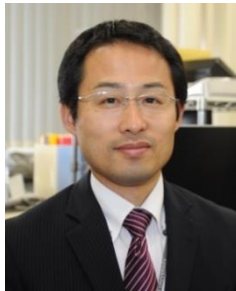
町田 由徳(岡崎女子短期大学)



6年間に渡り産官学協働で制作、運営しているポータルサイト「岡崎コレクション」について、「サービスデザイン」観点からサイト改善策を検証した。サイトのステークホルダーへのヒアリングを通じて、サイト利用者が求める主要な情報を「技術・サービス」「業種別のインデックス」「読み物としての面白さ」の3つに定義し、企業インタビューページから4社をピックアップし、記事の情報伝達性についてのアンケート調査を実施した。記事中の単語の共起関係を分析し、アンケート調査結果と比較した結果、提供する「技術・サービス」が明確である記事は単語間が強い共起関係で結ばれていること、「読み物としての面白さ」のポイントが高い記事は登場する単語群のグループ出現数が多いことが判明した。検証結果を活用し、次年度サイト制作では単語間の共起を明確に意識したインタビューの構造化と、「業種別のインデックス」作成によるサービス改善に取り組む。

## 研究発表⑤【医療4職種のカリヤアンカー比較によるこれからの能力開発】

坂田 裕介(藤田保健衛生大学)・米本 倉基(藤田保健衛生大学)



坂田 裕介先生

本研究は、個人のキャリア開発に影響を与えると考えられるキャリア・アンカーの職種別特徴に注目し、病院に勤務する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職を横断的に比較することで、病院組織における今後のキャリア開発への知見を得ることを目的とした。方法は、各職種のキャリア・アンカーの特徴を把握するために、Schein, E. H. によるキャリア・アンカー・セルフ・アセスメント尺度を引用し、R社に委託して全国の病院に勤務している常勤の看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、事務職の各職種100人、計400人のデータをWebアンケート調査により収集した。その結果、各職種の能力開発は、キャリア・アンカー・カテゴリーTF、SE、LSに重点を置いた施策が効果的であることが示唆された。しかし、看護師や女性、非管理職においてGMの得点が低く、有意な差が認められたことから、女性の割合が多い医療職において、女性管理職育成が課題であることが示唆された。

## 研究発表⑥【学生プロジェクトにおける社会的認知度向上の仕組み】

奥村 実樹(金沢星稜大学)



本研究は、プロジェクトを進めることで特定の課題を解決しようというPBL型大学ゼミナールが、地域の伝統製品の活性化を扱った個別事例を取り上げ、その活動において、伝統製品の社会的認知度を高めるために用いられた仕組みについて考察し、同種の活動において適応可能な方策の提案を目的としている。特に活動における、記録・発信媒体として用いたブログの事例を中心に扱う。

ICTが、さらに普及していく可能性のある将来、学校教育は学習を見える形で外部(学生の保護者や、学生を雇用する可能性のある企業等団体など)に提示することが、一般化していくであろう。また、学生が近い将来、実社会で、ICTを活用し、外部に必要な情報を提示できるようする能力を発揮する必要に迫られるであろう。特に経営を専攻する者は、教育上その能力を身につける必要がある。そのような環境において、今回の学生の取組は、一定の意義があるのではないかと考える。

## 【懇親会 in 中国料理 萬珍軒本店(岡崎市)】 ブロック運営委員 西川 三恵子(九州共立大学)

今年度は松の内も明けない1月6日(土)に三河の国 岡崎女子短期大学さんで開催されたので、懇親会会場は錦地の萬珍軒本店で本格中華のコース料理。創業80年を超える店の老舗の味に一同舌鼓を打った。

参加人数は16名であったが、初日の研究会参加人数の9割がそのまま参加される熱い雰囲気続き、新入会員の方々も参加くださり、今回は立食ではなく、一部屋に二つの円卓が配置される座敷スタイルという気安さもあり、関東・東北ブロックご所属からのご参加を頂いた大島武先生に、乾杯前のスピーチから乾杯のご発声まで頂戴し、会がスタートしても、今日のパネルディスカッションや学生プレゼンテーションの各学生の熱き想いについての話題に花が咲き、最後までそこかしこで楽し気な笑い声あふれる、まさに懇親のひと時を楽しんだ。

## 【学生プレゼンテーション・コンテスト】 ブロック運営委員 若月 博延(金城大学短期大学部)



最優秀賞：宮永 愛弓(金城大学短期大学部1年)  
優 秀 賞：堂ヶ平 夏奈(金城大学短期大学部1年)  
宮川 ゆず(岡崎女子短期大学1年)  
奨 励 賞：天木 舞(愛知東邦大学3年)  
岩田 彩華(愛知東邦大学3年)  
桑田 好穂(岡崎女子短期大学1年)  
佐伯 有里恵(富山短期大学1年)  
水野 美樹(富山短期大学1年)

審査委員長からの講評ではいずれの発表者も高水準で、審査に大変悩んだ様子が伝えられました。全体評価としては、今回の8本の発表は、①伝える力が強いこと、②構成そのもののレベルが高い、というものでした。反面、今後気を付けてもらいたいこととしては、①もっとボディランゲージを使うこと、②マナーの観点からプレゼンテーションをする時の立ち姿が美しく見えるように気に掛けること、という評価もありました。いずれにせよ、8人全員から、このコンテストにかける努力の様子がうかがえ、とても好感もてるプレゼンテーションだったかと思えます。今後この経験を活かし素敵なビジネスパーソンになって欲しい、との審査委員長のまとめの言葉にはとても共感できました。

## お知らせ①【全国大会 ぜひご参加ください】 大会統一テーマ『地域・産業界と協働するビジネス実務教育』

＜大会日程及び会場＞2017年6月9日(土)・10日(日)、徳島文理大学徳島キャンパス

1日目には、学会員アンケート調査に基づく研究推進ワーキングの報告、2日目には、教育研究サポートセッションやワークショップなど、新たな企画もされているなど、盛りだくさんの内容です。

## お知らせ②【中部ブロック共同研究助成 公募】

今回の共同研究助成では、事前にテーマを設定いたしません。

もちろん、6月大会の地域・産業界との協働についての研究などの中心テーマはありますが、研究対象領域(<http://jsabs.hs.plala.or.jp/about-jsabs/area/>)をご参照のうえ、簡単な概要とともにテーマ設定してください。応募締切まで短期間ではありますが、ご応募をお願いいたします。

＜助成額＞ 応募件数により調整(昨年度上限3万円) ＜応募締切＞ 3月23日(金) ＜決定＞ 3月31日(土)

※お問い合わせ・応募先メール [tejima.shinsuke@aichi-toho.ac.jp](mailto:tejima.shinsuke@aichi-toho.ac.jp) (手嶋)

## 【編集後記】

ブロック運営委員 中川 雅人(中部学院大学)



平成29年度中部ブロック研究会は、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学での開催となりました。助成研究報告や口頭発表では、ビジネス実務に関する多角的な研究発表が行われ、活発な議論が交わされました。また、学生プレゼンテーション・コンテストではハイレベルなプレゼンが行われ、学生のみならず、指導された先生方の熱意までもが感じられました。最後の見館先生のご講演では、産官学連携に向けた、具体的かつ実践的な手法を示していただきました。このような素晴らしい研究会の開催にご尽力いただいた会場校の先生方お礼を申し上げますとともに、中部ブロックの研究活動が益々活発になりますことを心よりお祈り申し上げます。